市営プールの整備に関する市民アンケート調査等

報告書

【抜粋】

令和5(2023)年1月

教育部生涯学習スポーツ課

はじめに

(1)調査の目的

本調査は第二期武蔵野市スポーツ推進計画で示されている市営プールの整備方針について、今後の検討の基礎的資料とするため、市民ニーズ等を調査することを目的に実施する。

(2)調査の概要

本調査は、アンケート調査、ヒアリング調査(利用者および利用団体)、ワークショップの4つの手法により、市民からの広く多様な意見を収集する形で実施した。各調査概要は、以下のとおりである。

①アンケート調査

項目	概要		
調査対象	市内在住 16 歳以上の市民 2,000 人		
抽出方法	住民基本台帳にもとづき、地域別・年齢別に無作為抽出		
調査方法	郵送配布・郵送回収 (インターネットによる回答も可)		
実施時期	令和4年8月~9月		
回収結果	627 件 (郵送回答 423 件、インターネット回答 204 件) 回収率:31.4%		

②利用者ヒアリング調査

項目	概要	
調査対象	市営プール利用者(屋内および屋外プールの利用者)	
調査場所	屋内および屋外のプールサイド・更衣室前ベンチ・観覧席ベンチ・受付入口付近	
調査方法	調査票・検討案を提示し、聴き取り調査(調査票は調査員が記入)	
実施時期	令和4年8月(平日および週末 午前~夕方までの時間帯)	
聴取結果	80 名	

③利用団体ヒアリング調査

項目	概要		
調査対象	市営プール利用団体(体育協会関連・高齢者等を対象とする団体など)10 団体		
調査場所	電話および総合体育館会議室		
調査方法			
実施時期			
聴取結果	9団体		

④ワークショップ

項目	概要			
対象地域	吉祥寺圏	中央圏	武蔵境圏	
開催場所	武蔵野公会堂	武蔵野総合体育館	武蔵野プレイス	
参加方法	市報等による公募			
検討方法	テーマに沿ったグループによる意見交換			
開催時期	令和4年11月12日	令和4年11月12日	令和4年11月25日	
参加者数	6名	9名	12 名	

1 調査結果の概要

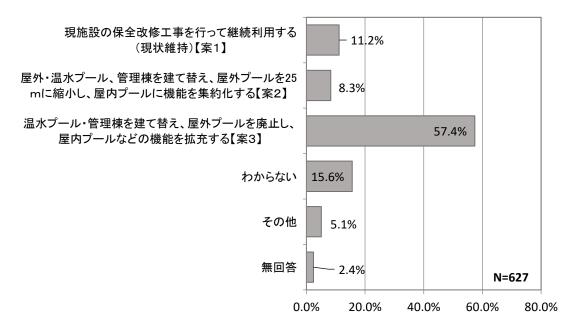
第二期武蔵野市スポーツ推進計画で示された整備検討案に対する意見について、各調査 結果の概要については、以下のとおりである。

<第二期武蔵野市スポーツ推進計画で示された整備検討案>

- 【案1】 現施設の保全改修工事を行って継続利用する(現状維持)
- 【案2】 屋外・温水プール、管理棟を建て替え、屋外プールを25mに縮小し、屋内プールに機能を集約化する
- 【案3】 温水プール・管理棟を建て替え、屋外プールを廃止し、屋内プールなどの機能 を拡充する

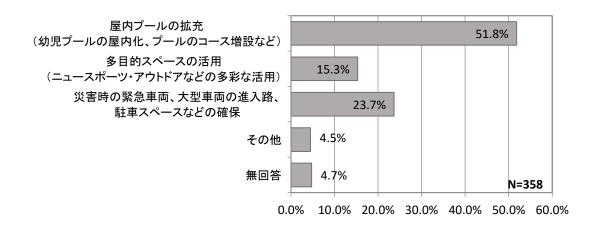
(1)アンケート調査

◆【案3】が6割弱、【案1】が1割強、【案2】が1割弱の順である。



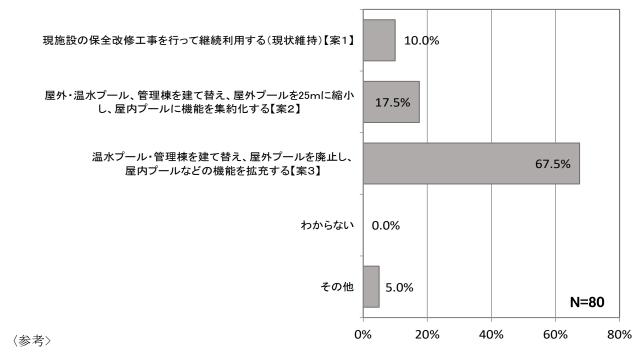
〈参考〉

市営プールの整備における機能拡充について重視したい点(【案3】と回答した人)

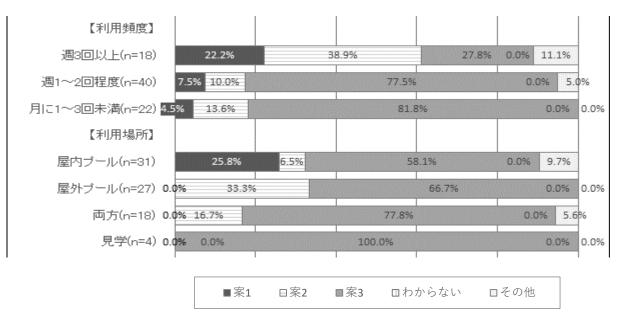


(2)利用者ヒアリング調査

- ◆【案3】が7割弱、【案2】が2割弱、【案1】が1割の順である。
- ◆利用頻度別にみると、ばらつきがあるが、回答者の最も多かった「週1~2回程度」 の利用者層では、【案3】が8割弱、【案2】が1割、【案1】が1割弱の順である。
- ◆利用場所別にみると、ヒアリング調査当日に回答者が利用していた施設については、 「屋内プール」、「屋外プール」、「両方」ともに、【案3】が50%以上を占めている。



利用頻度·利用場所別内訳



※集計は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示しているため、割合の合計が100.0% とならない場合がある。

(3)利用団体ヒアリング調査

- ◆ヒアリングを実施した9団体中、4団体が【案3】を支持した。
- ◆屋外空間の気持ち良さや50mコースがあることから屋外プールを残してほしいとの意見があったが、一方でコストの面での課題についての意見もあった。
- ◆整備にあたって、屋内プールの設備の充実や、現状の課題である動線の確保やバリアフリー化、衛生面での改善を求める意見があった。
- ◆屋内に50mプールがあると良いが、建設費などを現実的に考えると、屋内に公認競技が可能な25m×8コース程度があれば良いという意見があった。

(4)ワークショップ

◆ワークショップでは、3つの整備検討案について、参加者自身の考えを付箋に書いて 意見を出し、さらに、グループでの意見交換をしながら、新たに気付いた点や、他の意 見を参考にして考えた点など、付箋に書き足しながら多くの意見を出していった。 各案について出された意見の数(出された付箋の枚数)は、以下のとおりである。な お、付箋は1枚につき1つの意見とし、重複した内容も含まれる。

	案1	案2	案3	全体的な 改善点等
肯定的な意見	36	23	27	-
否定的な意見	32	16	23	-
その他意見	11	14	18	39
合計	79	53	68	39

- ◆【案1】について、屋外プールの良さに加えて、50mプールでの市内大会が開催可能 といった点や、改修費が低コストだという意見があった。一方、動線やレイアウト、バ リアフリーの問題が解決しない点や、利用者、利用時期に対しての費用対効果に課題 がある点も意見として挙げられた。
- ◆【案2】について、屋内・屋外両方使えることのメリットがある一方で、コストが高くなることを懸念する意見もあった。
- ◆【案3】について、プールの通年利用やバリアフリー化などの施設整備面の改善の他に、イベントや大会の開催時や災害時など、敷地の整備・有効活用の視点からの肯定的な意見が出された。一方、屋外プールがなくなることや、50mプールでの大会実施ができなくなるなどの意見もあった。
- ◆ワークショップでは、各案についての良い点、悪い点の検討だけでなく、整備全体に 関わる内容についての意見もあり、参加者自身が市営プールのあり方をより深く考え る機会にもなった。

プール施設のあり方について

ここからは、今後の市営プールの整備について、ご意見を伺います。下記参考資料をご一読のうえ、問12以降にお答えください。

(参考資料)

昨年度の第二期武蔵野市スポーツ推進計画の策定過程において、今後の市営プールの整備のあり方について、市民の皆様からの意見を踏まえ、その方向性が示されました。

ここでは、現状・課題とともに検討された整備検討案と整備の方向性について、ご 説明します。

①整備の目的

- ・障害の有無に関わらず、幼児から高齢者までが快適かつ安全安心に、年間を通して利用できるプールとするため
- ・観るスポーツ・障害者スポーツの促進、エリア一体の良好なまちづくり、災害時への円滑な 対応など、複合的な取組みができる施設とするため

②現状と課題

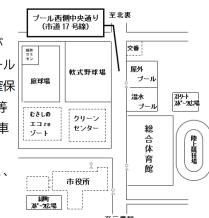
市営プールは、温水プール、屋外プール及び管理棟で構成されています。同プールと周辺環境の現状と課題は以下のとおりです。

【市営プール】

- ・温水プール棟は平成元年(1989)年竣工、管理棟は昭和 57(1982)年竣工です。また、戦後 市が中島飛行機武蔵野製作所から譲り受けた屋外プールは、戦前から使用されています。現 在の施設を維持するために必要な改修を行うと工事費に約 10 億円がかかる見込みです。
- ・管理棟は、屋外プール用として建てられ、後に温水プール棟を増設しているため、改修しても、換気(臭気)、動線の複雑さ、バリアフリー化などの現行の課題は解消できません。
- ・屋外プールは、年間を通しての利用が7月~9月中旬のみとなっており、気象条件により開場日が更に限定されます(令和元年は開場期間77日のうち22日が悪天候により使用を中止)。また、50mプールとしての使用は年2回の大会のみです。施設の規模が大きく大量の水を必要としますが、経年劣化により井戸水が使用できないことから多額の水道料金がかかり、施設の維持管理が非効率となっています。

【周辺環境】

- ・災害時には、総合体育館が物資輸送拠点、陸上競技場が 自衛隊宿泊地として位置づけられていますが、市営プール と隣接する総合体育館の間の通路等が狭く、進入路の確保 ができません。また、スポーツ大会等の開催時に選手等 の移動や機材搬入等に必要な大型車両の進入路及び駐車 スペースも確保できません。
- ・プール西側の中央通り(市道第17号線)は歩道が狭く、 快適な歩道空間の確保及びバリアフリー化等のため、 現在のプール敷地に歩道を広げる必要があります。



③整備検討案

※文中のコストは令和3年度計画策定時の概算金額です。

案1

現施設の保全改修工事を行って継続利用する

メリット

- ・工事費が施設を建て替えるよりも安価となる。(約10億円)
- ・屋外プール(50m)を継続して利用することができる。

・管理棟を継続して利用するため、換気(臭気)やバリアフリー化、温水プールとの 導線の複雑さについての課題が解決できない。

デメリット

- ・プール西側の中央通り(市道第 17 号線)の歩道拡幅に必要なスペースを確保できない。また、総合体育館や陸上競技場への車両の進入路や駐車スペースが確保できない。
- ・屋外プールの管理運営費が継続してかかる。(5億円/20年間)

案2

屋外・温水プール、管理棟を建て替え、屋外プールを25mに縮小する

※既存の屋外 プールは 50m

メリット

- ・換気やバリアフリー化、管理棟と温水プールとの導線の複雑さなどの課題が改善される。
- ・屋外プール(25m)を継続して利用できる。温水プールの建替えに伴い、25mプールのコース増設(現7コースを9コースへ)、屋外にある幼児プールの屋内化などの機能の向上を図る。

・屋外プールの縮小に伴い、プール西側の中央通り(市道第 17 号線)の歩道拡幅に必要な スペースの確保や総合体育館、陸上競技場への車両の進入路や駐車スペースが確保でき る。また、地域のイベントなどで活用可能な多目的スペースの確保を検討できる。

デメリット

- ・工事費及び管理運営費の比較コスト合計が最も高くなる。(約36億円)
- ・屋外プールの管理運営費が継続してかかる。(5億円/20年間)
- ・既存の屋外プール(50m)で開催されていた大会(年2回)ができなくなる。

案3

温水プール・管理棟を建て替え、屋外プールを廃止する

・換気やバリアフリー化、管理棟と温水プールとの導線の複雑さなどの課題が改善 される。

・温水プールの建替えに伴い、25mプールのコース増設(現7コースを9コースへ)、屋外にある幼児プールの屋内化などの機能の向上を図る。

メリット

- ・屋外プールの廃止に伴い、敷地内に十分なスペースを確保できるため、大規模なスポーツイベントをはじめ、障害者スポーツ、ニュースポーツ、アウトドアなどの多彩な活用が可能となる。また、プール西側の中央通り(市道第 17 号線)の歩道拡幅に必要なスペースの確保とともに周辺の交通円滑化が図れる。更に、災害時における緊急・大型車両の進入路、駐車スペースの確保もできる。
- ・屋外プールの管理運営費がかからない。(-5億円/20年間)

デメリット

- ・既存の屋外プール (50m) で開催されていた大会(年2回)ができなくなる。
- ・屋外プールの廃止に伴い、夏期の利用人数やレクリエーション機会が減少する。

	上記3案の比較コスト		(内 武)				
			工事費	屋外プールの管理運営費			
	案1	約15億円	約10億円(改修工事)	約5億円(2,500万円/年×20年間)			
	案2	約36億円	約 31 億円(解体・建替工事)	約5億円(同上)			
	案3	約26億円	約 26 億円(解体・建替工事)	なし (屋外プールの廃止)			

第二期スポーツ推進計画では比較検討の結果 整備の方向性として【案3】を採用 第二期スポーツ推 進計画は、右記二 次元コードからご 覧いただけます。

